

第2期人口ビジョンと総合戦略の全体像

《人口ビジョンとは?》人口の動向を分析し、目指すべき将来の方向や人口の将来展望を示すもの
 《総合戦略とは?》人口ビジョンを踏まえて、今後の5か年の政策目標や施策をまとめたもの

総人口の展望

宇城市人口ビジョン 2060年 40,760人 を目指します。(現在の推計では31,892人)

■生産年齢人口(15歳から64歳)の市外への転出者を抑え、転入者を増やす。



展望へと導く 3つの基本理念

SDGs(持続可能な開発目標)とは、2015年に開かれた国連サミットにおいて採択された、2030年までに世界が達成すべき目標を指します。宇城市も賛同しており推進します。



戦略の基本理念
UKINISUM
(ウキニスム)

『人々がこの地域で生まれ育ち、宇城市の優れた子育て支援や教育を受けて、生涯にわたり健康に過ごしなが、地域社会で活躍・貢献し、次世代を育む』その思いの象徴として【UKINISUM(ウキニスム)】というフレーズをかかげています

地方創生
SDGsの推進

未来を拓く
新たな視点

未来をひらく3つの視点
 ◎関係人口の創出・拡大
 ◎Society5.0の推進
 ◎国土強靱化計画との連携



理念を実現するための 5つのアクションと目標(KPI)

<p>子育て・教育 【「育てる」】</p> <p>次代を担う子どもたちが、主体的で社会の変化に柔軟に対応できる幅広い知識と教養を身につけ、豊かな人間性と健やかな身体を養い、たくましく成長できる教育環境と子育て支援が充実したまちづくりを進めます。</p> <p>【重要業績評価指標(KPI)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出生数:450人以上/年 社会増減(25~44歳):±0人/年 	<p>産業・都市 【「持続する」】</p> <p>本市が、将来にわたり持続的に発展できる地域となるように、『良質な雇用を創る「稼ぐ力を高める」』という観点のもと、産業基盤や都市機能の充実した持続するまちづくりを進めます。</p> <p>【重要業績評価指標(KPI)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民税額:2,090百万円 法人市民税額:382百万円 	<p>横断的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> (I) Society5.0の推進 (II) 企業版ふるさと納税の活用 (III) 教育機関との連携強化 (IV) 市外在住者との連携強化 (V) 地域間連携の推進 (VI) 国土強靱化計画との連携
<p>健康・生涯活躍 【「住み続ける」・「活躍する」】</p> <p>「ちょうどいい!住みやすさ」を実感でき、将来にわたり健康で、年齢や障がいの有無等を問わず、まちづくり活動の主役となり、活躍できるまちづくりを進めます。</p> <p>【重要業績評価指標(KPI)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康づくり活動参加者数:7,000人 要介護認定率:19%以下 	<p>観光・交流 【「選ばれる」】</p> <p>多様な人々が、訪れ・交流し活力を生む「まち」となるように、本市固有の地域資源や特徴を生かした、ブランドが確立し、さまざまな目的に選ばれるまちづくりを進めます。</p> <p>【重要業績評価指標(KPI)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光入込客数:2,125千人/年 魅力度ランキング:県内10位 	

第2期
宇城市まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン・総合戦略
【概要版】

ウキニスム
UKINISUM



人口ビジョンについて

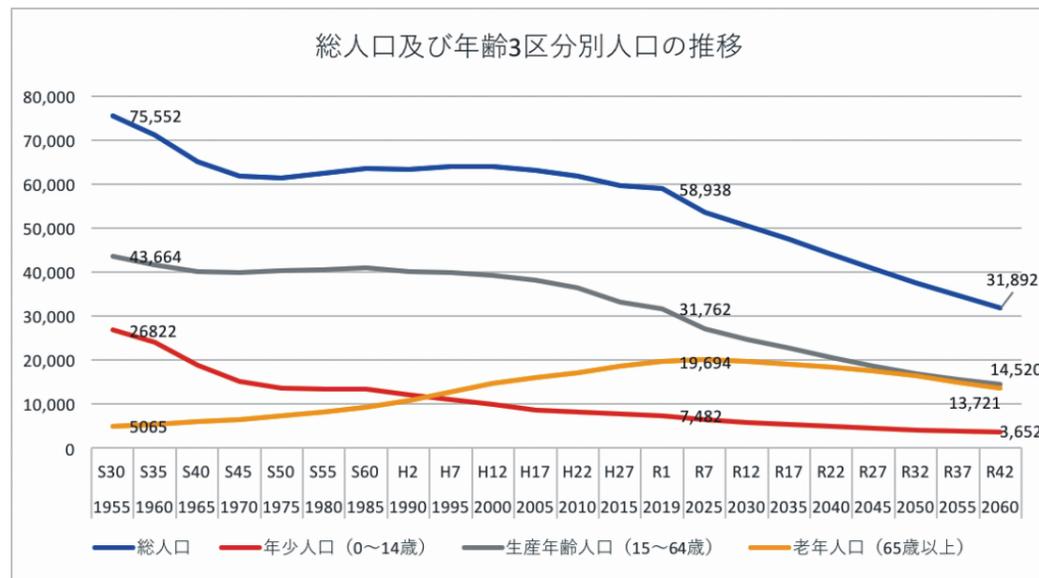
1. 宇城市の人口の推移及び構成

本市の人口は、2019年の58,938人から2060年には31,892人になると予測しています。人口の減少により、雇用の減少や、行政サービスの低下、地域活動の担い手不足等の悪影響が生じ、更なる人口減少が想定されます。

人口流出の最も多い年齢層は15歳～34歳の若年層約で、2010年時点での約13,500人が、2020年には約10,500人となり10年間で約3,000人が市外に流出しています。

出生数は、1975年の830人から減少傾向となっており、2018年は451人(対1975年比約55%)にまで減少しています。1990年頃を境に、死亡数が出生数を上回る、自然減の状態となり、その後拡大を続けています。

5町別の人口は全て減少傾向しています。特に、三角町は著しい減少となっています。人口構成比では、松橋町が、1955年の25%から2019年には44%へと増加しており、松橋町の人口が市全体の人口をけん引していることが分かります。



2. 目指すべき将来の方向

この地域に「集う」「暮らす」「活躍する」関係人口の創出に繋げるため、誰もが魅力を感じる街づくりを進めることでシビックプライドの醸成を狙った「U K I N I S U M (ウキニスム)」というフレーズを掲げました。宇城市の主義や流儀、傾向 (I S M) を浸透させ、「宇城に住む」人々と共に、人口減少を抑制するために以下5つの取り組みを行います。

- ①「育てる」…子育て・教育
- ②「住み続ける」・「活躍する」…健康・生涯活躍
- ③「持続する」…産業・都市
- ④「選ばれる」…観光・交流
- ⑤横断的な取組

3. 人口の将来展望

以上5つの取り組みにより本市は2060年に人口40,760人を目指します

◎社会動態の改善

若年層中心に転出超過改善に取り組み、年間180人の転出超過を1/2～0に改善。

→5年間で約1000人の人口流出を半数から0まで減らすことができれば40年間で想定人口より約4,000人から8,000人の流出を防ぐことができる。

	現在の人口	2060年	
	(R2年3月時点)	推計	人口ビジョン
国	1億2595万人	8,674万人	1億人
熊本県	174.3万人	117.6万人	144.4万人
宇城市	5.9万人	3.18万人	4.07万人

総合戦略について

基本目標① 子育て・教育【「育てる」まちづくり】

- (I) 子育て支援・児童福祉の充実 | 子供たちが安心して育まれる環境で育まれる為の、育児相談体制の充実と経済的支援。
- (II) 優れた教育環境の構築 | 最先端のプログラミング能力や読解力、論理力などの基礎学力の定着のための民間企業等の協力、市内の高校や支援学校の特色を生かした教育力向上

重要業績評価指標 (KPI) ■ 出生数: 450人以上/年 ■ 社会増減 (25～44歳): ±0人/年

基本目標② 健康・生涯活躍【「住み続ける」・「活躍する」まちづくり】

- (I) 生涯を通じた健康づくり | 人生のライフステージ(乳幼児期・青壮年期・高齢期)を通じた健康づくり、疾病予防対策など
- (II) 多様な人々が活躍できる地域づくり | 地域内外の個人やNPO、企業、金融機関、教育機関など多様な主体を地域の担い手として捉える地域コミュニティの維持・強化

重要業績評価指標 (KPI) ■ 健康づくり活動参加者数: 7,000人 ■ 要介護認定率: 19%以下

基本目標③ 産業・都市【「持続する」まちづくり】

- (I) 良質な雇用の創出と競争力の強化
 - ・「良質な雇用」の創出のためのIT関連企業等の誘致やベンチャー企業への支援、創業・起業支援
 - ・高等教育機関等との連携強化による人的資源の育成・確保。
 - ・「くまもと版地方創生移住・起業支援プロジェクト」によるUIJターンの推進。
- (II) 地域商社機能の強化と6次産業化の推進
 - ・地域資源を活用した商品開発やマーケティングまた販路開拓等に取り組む人材、地域商社や地域づくり団体、起業・経営をサポートする専門人材の育成、支援、確保。
 - ・域外からの人材獲得や企業誘致と環境、施設の整備
 - ・「道の駅うき」併設の販売施設を核とした人々が「集い・結ばれ・繋がる」地域拠点の強化
- (III) 農業・水産業の成長産業化
 - 【農業】農地の集積・集約等による生産コストの低減や物流の効率化、新規就農者支援や農業生産法人の設立・拡充等、6次産業化や農泊、農家レストランなどの複合的な経営の推進、最先端技術の活用によるスマート農業・鳥獣被害対策の推進
 - 【水産業】資源管理型漁業への転換やブランド化、6次産業化、販売体制の整備、漁業施設等の更新や近代化、先端・未来技術の実装
- (IV) 魅力的な都市生活圏の形成
 - ・国道を軸にした放射環状型の道路ネットワーク構築、幹線道路及び旧5町を結ぶ道路、JR各駅と交通結節点や工業団地への道路の整備
 - ・JR各駅を中心とした市街地再開発都市とコンパクト化による「居心地が良く歩きたくなるまちなか」創出
 - ・交通と情報ネットワークで結ぶ日常生活サービス機能の維持
 - ・空き地・空き家等の遊休資産の再生・利活用
 - ・IoTなどの先端技術の導入や再生エネルギーを活用した災害に強いまちづくり
- (V) 持続可能な公共交通網の形成と交通結節点の強化
 - ・新たな交通拠点(駅周辺)の公共施設や公的不動産などの官民共同による魅力的な空間づくりとコミュニティ拠点機能の向上
 - ・自動運転サービスやAI, IoTなどの先端・未来技術の実装によるスマートシティに向けたまちづくり

重要業績評価指標 (KPI) ■ 市民税額: 2,090百万円 ■ 法人市民税額: 382百万円

基本目標④ 観光・交流【「選ばれる」まちづくり】

- (I) 稼げる観光の推進 | 『大切な人と楽しい宇城。』をスローガンに「三角西港」を核とした観光振興と国内外のファン獲得の為の情報発信
- (II) シティプロモーションの推進 | 宇城市の知名度やブランドイメージ向上、市民の「誇り」や「愛着」を育むシビックプライドの醸成、「現在と未来の子育て世代」に向けた移住定住を狙った戦略的なプロモーション

重要業績評価指標 (KPI) ■ 観光入込客数: 2,125千人/年 ■ 魅力度ランキング: 県内10位

基本目標⑤ 横断的な取組

- (I) Society 5.0(※1)の推進
- (II) 企業版ふるさと納税の活用
- (III) 教育機関との連携強化
- (IV) 市外在住者との連携強化
 - 同郷ネットワークとの連携強化やSNS等を活用した情報発信による、市街在住者との関係性の継続や相互交流の構築
- (V) 地域間連携の推進
 - 中枢都市圏や近隣自治体等との地域間連携・協働の推進
- (VI) 国土強靱化計画(※2)との連携
 - ※1: Society 5.0とは…サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会
 - ※2: 国土強靱化計画とは…私たちの国や、経済、暮らしが、災害や事故などにより致命的な被害を負わない強さと、速やかに回復するしなやかさをもつ為の計画